

2023年2月1日発行

## ダボス会議の見通し、悲観から楽観へ？

## 最近の状況

1月20日まで、スイスでは恒例のダボス会議が開催されていました。今年のテーマは「分断する世界での協力」。世界から集まった2700人の政財界のリーダーの予測は悲観から楽観に変わり、23年後半からよくなり、24年はもっと良くなるという予想なのだそうです。今回注目されたのは、ゼロコロナ政策を転換した中国で、出席した中国の経済運営を指揮する劉鶴（リュウ・ハア）副首相は（異例にも）講演前に深々と聴衆にお辞儀をしたのだそうです。今後のなりゆきに注目したいと思います。



蛭 梅

## 1月定例会を開催

1月定例会は、新型コロナウイルスの感染者数の急増に対応して、3か月連続でzoomでの開催に切り替えて1月10日に開催した。今回は、森本さん、田中さん、富岡さんが「上下水道事業体の環境会計」として発表。森本さんより説明、富岡さん、田中さんより補足説明があった。参加者は11名。参加者からは、水道事業体における環境会計の取組の現状を的確に整理していて参考になった。今後の取組みについては、海外にも展開する視野を持っている企業は、非財務情報などの世界の動きに対応して体制を整えることは必須事項である一方、水道事業体については、議会対策や市民向けに効果があると感じているところでの継続は別としても、多くのところでは人材面でむしろ負担が大きいのではないかなどの意見が出た。詳細は、水道公論3月号に掲載（森本、三輪さんの連名）。

## 水道公論2月号の内容

「海外水ビジネスの要点」シリーズでは工藤克典氏による「海外インフラ投資の官民ファンドによる資金調達」を、コラム「海外ビジネスの眼」では「水不足とラスキンの労働観」を掲載。名古屋講演会の記録連載も始まります。

## 定例会・幹事会の開催について

- 幹事会は、2月17日（金）定例会の前の週の幹事会開催が復活します。3月と4月の定例会や上期中の予定確認等を行う予定。
- 定例会は、コロナの新規感染者数の動向に注意しつつ、久しぶりに市ヶ谷水道会館での会議室開催を期待しています。2月22日（水）12時半から14時半（テーマはDXと水道事業、講師は、前回に引き続き森本達男さん）

## 研究会への参加者募集について

- 研究会への参加のお問い合わせ、ご意見、ご提案をお待ちしています。
- 研究会の開催は、東京都内の会議室（市ヶ谷の水道会館など）での対面開催（zoom併用）の場合は、12:30～14:30の時間帯で、zoomのみでの開催の場合は、同時間帯か、19:30～21:00の時間帯で実施しています。開催日程やテーマは、その月の1日に発行されるNews Letterでお知らせしています。
- お問い合わせは、事務局宛のメール（下記）をご活用ください

## 水道公論コラム原稿を募集しています

字数は1500から1600字、「である調」、ペンネーム（実名は出さず）で原稿を募集しています。連絡は山村まで。